

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームななかまど歌志内館 2号館	評価実施年月日	平成20年7月7日
評価実施構成員氏名	長沢 雅美／小柳 倫子／林 郁子／樋口 渚彩／門脇 靖典／山川 寛司／西田 由美子／湯沢 佳彦		
記録者氏名	湯沢 佳彦	記録年月日	平成20年8月7日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念であり、地域密着型に沿った理念を作り上げています。	○	家庭的な環境と地域住民との交流の下に、ケアを通して得た気づきを職員全員で共有し暮らしの継続を支援している。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に基づくケアプランを作成し、実践している。	○	毎朝理念の唱和を行い、日々サービスプランに盛り込み実践する中で振り返る機会を作り、質の向上に取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ななかまど便りの発行や地域交流を通しての浸透。	○	便りを発行し、地域に対しては、広報にななかまど便りを入れてもらっている。理念に基づいたケアの実践については、地域交流など通し、理解してもらえるように実践している。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域活動は積極的に参加しコミュニケーションを図ったり、日頃から挨拶をする中で関係を築き隣近所の方との付き合いに努めている。	○	町内活動を通しての交流や、収穫した野菜を配るなど、何かあったときには立ち寄ってもらえるような関係作りができています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域活動に参加して、交流を図っている。町内会に入り、各行事に入居者・職員共に参加している。	○	ラジオ体操の場所を提供し、入居者・職員が参加したり、七夕祭り・世代交流会・盆踊り大会・清掃活動、敬老会、新年会など参加している。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域行事は率先して参加する様にすると共に実習生の受け入れにも積極的に取り組んでいる。	○	資格取得のための実習生受け入れや専門学校の実習生の受け入れ等随時行っている。ななかまど便りにて情報発信や河川清掃、町内清掃など行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価に取り組み、様々な意見を取り入れて、日々の活動に反映出来る様話し合っている。	○	日々のミーティング等職員全員で評価に取り組み、自己評価を活かし更なるサービスの質の向上となるよう日々の活動を行っている。
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、サービスの向上につなげている。	○	取り組みについての報告、参加メンバーからの意見を取り入れ、地域交流など日々の活動に活かしている。
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	随時市役所等へ出向く機会を設けて、互いの近況報告や相談を行っている。	○	活動状況や問題点、地域の現状など互いに意見交換・情報交換している。広域連合内の1市5町の地域包括支援センターには入居状況ついて報告している。
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護や後見制度についての研修を受けている。	○	研修の参加や、必要に応じ本人や家族との話し合い、関係機関との相談を行っている。
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修参加や、勉強会を開催し虐待について職員の理解を深めている。事業所等で虐待に繋がる物はないか確認しミーティング等で注意を促したり、現状把握に努めている。	○	入浴時などに身体を確認したり、日常生活の中での言葉かけや介護方法等を職員全員で確認する時間を設けている。
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明や納得ができるよう分かりやすく伝え、確認しながら理解や納得を得ている。	○	利用契約書や重要事項説明書での説明、口頭で一つひとつ確認しながらの説明をしている。理念に基づく支援や医療機関との連携など、心身の状態によるホームとして出来る支援や出来ない支援の説明。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	内部や外部に問わず、本人の思いを伝え反映できるよう努めている。	○	町内活動や運営推進会議への参加、日常的な会話など様々な思いを汲み取ることで、運営や日々のケアに活かしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的に書面での報告、面会時や電話連絡にて報告している。	○	毎月介護記録・手紙・写真・金銭管理帳などを送付し、入居者さんの暮らしぶり、健康状態、お小遣いの使用状況などを報告を行っている。職員の移動などについても報告している。法人の基本方針として、どんな些細なことに対しても迅速に連絡・報告するようになっていきます(1円でも使う際は家族にまず連絡するなど)。また、施設内にて介護記録等を閲覧できるようになっています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情の受付に対しては、入居時に説明している。また施設内にも苦情に関するポスターを掲示し、外部機関への申し出先が分かるようにしてある。	○	北海道国保連合会、役所等相談窓口がある事の説明や面会時・電話、意見箱の設置にて意見の反映が出来る様にしている。話し合うことにより、問題の解決に取り組んでいる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや様々な会議、個人面談など意見を反映している。	○	意見や提案があれば、可能な限り前向きに反映されている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	一日を通したシフトの作成をし、状況に応じて組みかえが出来る様になっている。	○	日中・夜間で職員を区別せず日中・夜間通して馴染みのある職員が対応出来る様になっており、必要に応じて職員の配置が出来る様にシフト作りをしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職者、異動に対して家族に知らせている。職員間での引継をしっかりと行っている。担当者を2名にして、入居者へのダメージを最小限にしている。	○	手紙や面会時、電話連絡で報告している。職員誰もが馴染みの存在になれるように、入居者・家族と関わりを持っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外の研修や勉強会(全職員に対して告知し、参加の意志があれば、シフトを調節し、参加出来る様に配慮)	○	施設内研修では職員の知りたいことを題材にして開催したり、認知症のケアに取り組む為の研修を随時開催したり、職員のステップアップのために必要な研修には参加出来る様取り組んでいる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症ケアネットワークを設け相互訪問、勉強会・研修をしている。	○	ネットワークのメンバーで交流会(ボーリング大会・町内神輿担ぎ)を行ったり、勉強会や研修会を行なう中で互いにコミュニケーションを図ったり、情報交換・意見交換の場を作っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	話をする機会を多く持ち、現状の把握や改善に努めている。	○	ネットワークや、同業者などの交流や親睦会の実施。休憩時間や有給休暇などリフレッシュできるよう取り組んでいる。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の勤務状況を把握し、現状に即して臨機応変な取り組みをしている。	○	個々の目標や目標達成においての段階的な評価、認知症ケア実践に対する現場での助言。勉強会の開催。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談・施設訪問にて本人の思いを聴取している。	○	事前面談を重ねて本人の思いを聴けるような関係作りを行い、施設訪問していただく中で打解けてもらえるように職員全員で受け入れる態勢をとっている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談・施設訪問にて家族の思いを聴取している。	○	事業所での取り組みを伝えたり、必要に応じた機関の情報提供など当事業所の利用の如何に問わず、相談できる体制をとっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報を収集し、どんなサービス利用が出来るのかまた、どんなサービス利用が適切なのかを考えながら相談に対応している。	○	地域の機関の情報や当事業所での取り組みを含めより良い選択が出来る様に相談に応じられるようにしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設見学、家庭訪問、本人・家族との面談機会を多く設け、本人が納得した上で入居できるように支援している。入居後のことに対してアドバイスをして入居後の不安を軽減出来る様にしている。	○	住み慣れた家・居室の写真等を元に居室作りを出来る様にしたり、入居後は家族に泊ってもらったり、外泊・外出支援の中で、出来るだけ今までと変わらない生活が出来る様にしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に過ごし、支えあう関係を築いている。	○	得意分野を活かせるように、場面設定することで教わり教えたりと共同する中で、関係作りを構築している。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活状況を定期的に報告したり、面会時や電話にて随時話しあったりしている。	○	生活記録や手紙・写真の送付など事業所側から積極的に通信支援を行なう中で互いに本人の事を共有出来る様にしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人・家族の思いを確認しながら関係構築に努めている。	○	面会や定期的な外出(盆・正月)、行事への参加呼びかけを随時行っている。居者の生活状況や心身の状況を理解してもらう中で関係を築けるようにしている。また職員全体で家族との関わりをもてるようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人のインフォーマルを理解し支援に努めている。	○	手紙や電話連絡、知人が遊びに来たり、一緒外出したり出来る様に支援している。また、馴染みの場所へドライブしたりしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	馴染みの入居者同士が過ごせる場所や互いに協力し助け合えるようにしている。	○	入居者の関係を職員が理解し畑作業・調理参加・行事など個人の力に合わせ馴染みの関係が築けるように時には職員も参加し支援している。またテーブル・ソファの配置も入居者がのんびりと関われるようにしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関係が保てるよう努めている。	○	面会や電話連絡など継続的に関われるよう努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族に話し合いながら確認している。日々コミュニケーションを図る事で把握に努めている。家族からの情報や生活暦などから検討している。	○	毎朝本人と話し合ったり、家族からの情報を活かし出来るだけ希望に沿った支援をしている。季節・天候・体調に合わせ、施設の畑利用や地域の施設(公園など)利用や地域の催しを利用したり、家事参加等内外の活動を利用しながら本人の気持ちを大切にし、支援につなげている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面談時に自宅や環境の確認をしたり、本人・家族から随時聞き取りしている。	○	本人に日々の生活の中で今までの生活状況に触れたり、家族が面会に来た時などに本人の生活暦や趣味・嗜好など確認している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々ななかまどシートに記録し現状を把握している。	○	ななかまどシートや、運営日誌に記録し、日々の過ごし方や状態変化など記録以外にも朝、昼、夕のミーティングを行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意見や要望、ケア会議にて職員からの意見を反映し作成している。	○	本人や家族との面談、ケア会議、日々の介護記録などモニタリングにより様々な意見を反映できるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人や家族、各関係者との話し合いにて見直しを行っている。	○	状態の変化や見直す必要があれば、話し合う機会を作り、現状に即した介護計画となるようにしている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々ななかまどシートや運営日誌に記録している。	○	日中や夜間の様子、思いやりや気付き、申し送り事項など記録に残し、全職員が閲覧出来き情報の共有をし、介護計画や見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	必要に応じ、柔軟な対応が出来る様に努めている。	○	病院受診や買い物、ドライブなどの送迎や付き添い、突発的な外出に対しても柔軟な対応をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各関係機関の協力をもらい支援をしている。	○	町内会やボランティア、近隣施設の利用など、協力を得ている。他の関係機関とも連携している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	連携を取り、他のサービス利用も出来るように支援している。	○	個々の状況に応じて訪問美容やラジオ体操など、各関係機関と相談しながら他サービスの利用ができるように支援している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ相談、協働できるようにしている。	○	必要に応じ訪問や電話連絡など行い前向きな解決につなげるために相談や助言をもらい協働している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設前の病院が往診医となっており、本人・家族と相談しながら往診を受けられる体制や希望する病院受診を出来る様にしている。	○	地元かかりつけ医の他にも近隣地域の病院でも対応してもらえる様に連携を図ると共に、本人・家族と相談しながら適切な医療を受けられるよう関係機関と連携を取っている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医やメディカルソーシャルワーカーと連携をしながら認知症専門外来への受診もおこなっている。	○	随時専門外来の受診や相談をしていく中で専門医との連携を図ると共に、勉強会等にも参加するようにしている。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員がいるので些細なことでもお互いに相談等しながら取り組んでいる。また、関係医療機関の看護師とも必要に応じて相談しながら取り組んでいる。	○	看護職員と相談意見交換しながら看護職員が中心となり日々体調管理や医療の活用を出来る様に取り組んでいる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関と連携を図り情報交換や相談している。	○	情報交換する中でいつでも受け入れられる体制作りを職員全員で取り組み、早期退院に向けた相談・支援方法を話し合っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に対しての方針を関係者で話し合っている。	○	重度化や終末期に対しての意思確認を段階的に行い、本人や家族、担当医など関係者との話し合い、ホームとしての支援方法も話し合っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族の意見を聞きながらかかりつけ医と連携し職員全員で取り組んでいる。	○	医療機関と連携をとりながら、本人・家族の意向も含め事業所としてどう取り組んでいけるかを考えながらチームとして取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	時間をかけ話し合い、細かな情報提供や職員の訪問など出来る様にしている。	○	ダメージ防止策の検討を十分に話し合い、馴染の関係を築いている人の面会等出来る限り支援出来る様に取り組んでいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ミーティング等を通し職員間の意識統一・向上に取り組み、職員全員のケアの取り組みにも注意をし、自尊心を傷つけないよう配慮している。	○	何気ない声かけや対応でプライバシーを損ねないようにしている。特に排泄等に関わる対応や言葉かけには配慮をしている(他入居者に聞こえないように声をかける、尊厳を損なわないような声かけ)記録も個人個人に分け保存している。また、他の家族や外来者に対して情報が漏れないように配慮、他入居者の前で介護をしたり等十分配慮し取り組んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定出来る様に支援している。	○	職員側から選択肢を限定せず、必要に応じて選択出来るように声をかけたり、発語のない入居者でも目配せや表情で確認し入居者が意思決定出来る様に支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人に確認したり、職員側からも本人の希望を探りながら、その日のサービスプランに盛り込む	○	本人に確認をとると共に体調など十分配慮しながら本人の過ごしやすい環境づくり、本人の思いを反映出来る様にしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人らしさが保てるように支援している。	○	訪問美容の活用や馴染みの理美容の活用が出来る様にしている。一緒に服を選んだり、必要に応じて髪を結ったり、逆に髪を整えてもらったり等、互いに楽しみが持てるようにしている。また、褒める事でより意欲を持てもらえるように心がけている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々のケアの中で嗜好調査を行う事や皆で共同して食事作り、片付けを行う事で食事に対して楽しみを持てるようにしている。	○	必要に応じて個別にメニューを替えたり、出来る限り食べたい時に食べたい物を提供出来る様にしている。また、一日のメニューを伝えることで入居者から嗜好を確認したり、準備・片付けに積極的に関わりを持てる様にしている。他にも畑で作った野菜を収穫することで、食事に対しての楽しみにつながるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みの物が楽しめるように支援している。	○	医療的な部分も含め相談しながら入居者の健康・体調面も考慮しながら好みの物が楽しめる様にしている。また、楽しめる時間や場所作りに努めている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用しながら支援している。	○	入居者の状況に合わせて、定期的に排泄誘導や声かけしながら出来るだけトイレでの排泄やオムツ・パット使用を抑えるように取り組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人に確認しながら曜日・時間を固定する事なく入浴出来る様にしている。	○	本人の希望を聞き、自由な時間に入浴してもらう。入浴を好まない方には、部分浴から慣れてもらい、入浴剤の活用で雰囲気作りをしたり、一緒に入り背中を流したりなど楽しみを持てるようにしている。また近隣の温泉利用などもし、必要に応じて家族の協力も得ている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人個人のリズムを大切にしながら支援している。	○	眠たい・眠りたいと感じれる環境や雰囲気作りをしたり、休む前の習慣を取り入れながら支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれの役割ごとや楽しみ事を把握し、支援している。	○	畑仕事・調理参加、ゲーム等好みのものをしてもらったり、近隣施設(郷土館・道の駅)利用により気晴らしの時間をもってもらっている。また、玄関先にベンチ・花壇等も設置し、のんびりと庭先で過ごせるようになっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を使ったり所持したりしてもらっている。	○	本人・家族と相談しながら本人にお金を管理してもらったり、買い物の際には実際に選んでもらったり支払をしてもらえるようにしている。金銭管理の難しい人にも出来る限り支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	いつでも外出できる体制をとっている。希望に応じ、それに沿えるように支援している。	○	希望を募ったり、体調や天気を見て楽しく外出出来るように支援している。道の駅に行ったり、庭の畑作業に出たり、ドライブをしたりしている。また、家族の協力も得て外出機会を作っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行きたいところへ行ける様にうに出来る限り支援している。	○	誕生日等の行事に組み込んだり家族の協力を得たり普段から行きたい場所の聞き取りをしながらドライブ支援に組み込んだりとしている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙を互いに出来る様にしている。	○	希望に応じて電話してもらったり、お礼の電話や手紙を書いてもらえる様に支援しており、相手からの電話や手紙も入居者さんに直接渡せるようにしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家庭的な雰囲気作りや職員も馴染みを持てるように取り組んでいる。	○	広く開放的な玄関になっており中も見やすく入りやすくなっている。地域の活動に入居者・職員で参加する事で馴染みが出来たり、訪問に繋がっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を開催し職員全員で身体拘束の理解を深めケアに取り組んでいる。	○	介護保険法指定基準において禁止となっている行為を具体的に勉強会や研修会で学び理解を深め職員全員で共通理解の下日々のケアに取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的に(入居者希望により設置居室あり)居室施錠できる作りにはなっていない。また玄関も日中は常に開放し自由に出入りが出来る様になっている。	○	職員が内外研修で認知症を正しく理解することに努め、鍵を掛けないケアの実践に取り組み、出入りの確認が出来る様にする中で、玄関・居室など施錠はせずに安心して開放的な施設内外利用を出来る様にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の状況に合わせて安全に配慮している。	○	目配り・気配りを大切にし、職員間でも声を掛け合ったり、入居者との会話の中で気付きを大事にし安全の配慮に取り組んでいる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に応じて危険防止に取り組んでいる。	○	いつでも使用出来るようにしながら、注意の必要な物品に関しては保管・管理に努め、使用状況にも目配りしながら危険防止に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全員で事故に対する理解や意識を高め取り組んでいる。	○	勉強会・研修会にて事故防止について学び、危険予測や確認作業を徹底する中で事故防止に取り組んでいる。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会や訓練を定期的に行っている。	○	普通救命講習の参加や勉強会をする中で定期的な訓練を受けている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施している。また運営推進会議にて協力を呼びかけている。	○	内外研修(防火管理者研修等)や避難訓練の中で入居者に合わせた誘導方法、避難場所の確認をしている。協力者の存在を確認している。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりうるリスクをあげて対応策を話し合っている。	○	どんなリスクが潜んでいるかを話し合い介護計画に反映する事で家族にも説明をし、本人の思いや行動を阻害しないように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的にバイタル測定をし状況に応じて再検をしている。また、管理者・看護師に些細な事も報告する様にし、職員全員で共有し対応出来る様にしている。	○	朝・昼・夕のバイタル測定や必要に応じた測定をしていく中で早期発見に努め、管理者・看護職員と連携をとりながら必要な対応が出来る様にしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師を中心に勉強会を開催するなど個人個人の服薬についての理解や支援に努めている。	○	服薬リストの作成や職員ひとり一人が薬効や副作用を理解し、服薬支援と服薬したことでの変化等の確認に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄(排便)確認をしながら入居者に応じた取り組みをしている。	○	日頃からの排泄状況の確認や食事・水分量の把握に努め、医師や看護職員と相談しながら便秘予防に取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者に合わせて口腔ケアに取り組んでいる。	○	毎食後の口腔ケアを大切にし、支援をしたり、促しをしていくことで清潔保持に」努め、状況に応じて歯科受診も行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を把握し、栄養摂取や水分確保が出来るようにしている。	○	バランスよく摂取出来るように、嗜好品を献立に取り入れるように配慮している。メニュー表を栄養士にチェックしてもらっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	勉強会を開催したり、資料を作り取り組んでいる。	○	感染予防に対する勉強会を行い、資料を活用しながら職員全員が理解をもてるようにし取り組んでいる。手洗いや消毒をひとケア毎に行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	メニューに合わせて食材を購入し、使い切るようにしている。余った場合にも冷凍したり状態を見て処分し衛生管理している。	○	定期的に食器消毒や、包丁・まな板・布巾等は随時漂白・消毒する様にしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日頃から玄関は開放しており、立ち寄ってもらえた時には玄関で腰を落ち着かせることが出来る様に腰掛を作っている。	○	玄関は開放しており中も見えやすくなっている。玄関には腰掛も設置したりと立ち寄りやすい雰囲気になっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	灯りの調節が出来る様にしており、温度・湿度の調整をしたり季節毎の華美ではない装飾の工夫や空間作りをしている。	○	親しみやすいものの設置や、光の明暗、温度調整など入居者さんと一緒に工夫し居心地良い空間作りを行っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関口にベンチ・ソファを設置し水槽や植木を見ながら過ごせたり少人数で過ごせるようにしている。	○	熱帯魚の餌やりを楽しんだり、植木の水やりを楽しんだり、一服しながら歓談できる場所を作っている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事前面談で自宅での生活環境を確認し(自宅の様子を確認)本人・家族と相談しながら馴染みの物を持って来て頂き、自宅での環境を出来る限り再現したり、本人の希望も確認しながら居室環境を整備している。	○	使い慣れたものを使用して頂くと共に、今までの習慣を継続出来る居室作り(仏壇に拝む・植木の水やり)を出来る様にしている。希望に応じて模様替え等も出来る様にしている。(混乱を招かない様に相談している)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な換気に加え随時状況に応じて行っており、消臭剤等も使用し臭いにも配慮している。	○	状況に応じた換気を行ったり、内外の温度差に配慮しながら温度計を目安に換気をしたり消臭している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子で入れるトイレ、男性専用のトイレの設置や状況に応じてテーブル・椅子などの配置も考え車椅子・杖等使っている人にも考慮し環境づくりに努めている。	○	入居者それぞれの動きを確認し通路の確保や必要に応じた手すりの配置をしている。トイレなども排泄の方法に合わせた(男女差)つくりになっている。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の力に合わせて支援している。	○	何が何処にあるか、どんな場所なのか分かるように印を付けたり、本人が馴染んでいるものを活用しながら支援している。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベンチの設置や畑・花壇を作っており自由に使える様になっている。また、物干しも設置しているので洗濯物も干せるようになっている。	○	バーベキュー等行事にも使っており、いつでも楽しんだり、活動してもらえる様にしている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2／3くらい ③ 家族の1／3くらい ④ ほとんどできていない ①

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない ①
98	職員は、生き生きと働けている	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2／3くらいが ③ 職員の1／3くらいが ④ ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんどいない ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2／3くらいが ③ 家族等の1／3くらいが ④ ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）